

令和6年度

まちづくり推進部の方針書

部名	まちづくり推進部
部長名	佐々木 賢祐

1. 部の使命(ありたい姿)

協働・文化・安全安心・健康をキーワードに、「人と地域が燦くまち」を支えます	
担当政策	政策6: やさしさと笑顔があふれる市民が主役の地域づくりを進めます
担当施策	3-1: 安心して暮らすことのできるまちづくりの推進 6-1: 市民の主体的な活動の支援と地域づくり活動の充実 6-2: 男女が尊重しあう社会づくり 6-4: 市内外との交流連携の推進

2. 部の抱える課題(現状)

<ul style="list-style-type: none">➢ 地域課題解決の取り組みを行う地域運営組織の設立を、全市展開で目指しています。➢ 地域の魅力や地域資源を活かし、連携と協働による魅力あるまちづくりを目指しています。➢ 地域ニーズを把握し、市民との協働による安全で安心な生活環境の整備を目指しています。➢ FM計画に沿った公共施設の適正な再配置を目指しています。

3. 今年度の『スローガン』

◆それぞれの役割を明確にし、地域課題の解決に努めよう

4. 今年度の方針

<ul style="list-style-type: none">➢ 市民が主役の地域活動と、応援人口との関係深化につながる取り組みにより、人口減少に適応した地域づくりの推進➢ 地域の魅力や地域資源を活かし、市民が誇りに思えるまちづくりの推進➢ 公共施設の適正な維持管理と、公共サービスの継続的な提供

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民が主役の地域活動と、応援人口との関係深化につながる取り組みにより、人口減少に適応した地域づくりの推進
	取組内容	<ul style="list-style-type: none">・地域活動を支える各種補助金や諸制度の周知と活用支援により、地域住民の意欲向上と活気ある地域づくりを推進する。・全市での地域運営組織の設立支援と、既存の地域運営組織(運営協議会等)の運営強化を図る。・ふるさと納税の推進と応援人口の創出・関係深化、地域おこし協力隊による地域の活性化や移住定住の促進に向けた効果的な事業を展開する。
(2)	実現したい成果	地域の魅力や地域資源を活かし、市民が誇りに思えるまちづくりの推進
	取組内容	<ul style="list-style-type: none">・地域の魅力や地域資源を活かし、地域の元気と賑わいを創出する事業を推進する。・横手市増田まんが美術館を中核とした地域資産活用地域計画に掲げる事業の円滑な実施とともに、それぞれの地域の特性を活かした魅力あるまちづくりを推進する。・官民連携による新たな地域づくり事業を展開します。
(3)	実現したい成果	公共施設の適正な維持管理と、公共サービスの継続的な提供
	取組内容	<ul style="list-style-type: none">・公共施設の状態、状況の把握とFM計画の再配置方針の周知を行うとともに、適正な施設運営・管理を実施する。・市民ニーズに対応した窓口サービスの充実による、地域に親しまれる地域局を目指します。・安全で安心して生活できる子育て・保健・福祉・環境の整備を目指します。

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 市民が主役の地域活動と、応援人口との関係深化につながる取り組みにより、人口減少に適応した地域づくりの推進
- ・補助金制度の内容を広く市民へ周知するため、わかりやすいチラシを作成して市内全戸配布したことで、申請件数が増加し、集会施設整備費補助金は7月上旬、町内会等備品整備補助金は8月上旬で受付を終了している。
 - ・浅舞地区では、R7年4月からの運営開始に向けた地区住民へのアンケート調査を8月に実施した。朝倉地区では、R8年4月からの運営開始に向け、地区住民への説明や多様な世代による「語る会」を実施した。里見地区は、伴走支援による運営協議会の組織体制の見直しと強化に取り組んでおり、役員や部会での話し合いを進めている。
 - ・ふるさと納税返礼品の拡充や返礼品登録事業者の掘り起こしなどに、関係部局とともに取り組んでいる。また、返礼品の磨き上げや寄附金額の増額につなげるため、返礼品登録事業者個別相談会(6月13・14日開催、20事業者参加)を開催した。
 - ・横手市出身者やよこてfun通信の読者、ふるさと納税をきっかけに横手市応援市民に登録くださった方々を対象に、市からの感謝の気持ちを伝える「リトルよこてfunパーティー」を11月9日に開催するための準備を進めている。
 - ・地域おこし協力隊の活動報告会や制度研修会を開催するとともに、県が実施する地域おこし協力隊募集支援プログラムにより、協力隊制度に関する理解を深めるとともに、活動内容の設定や募集要項の作成、受入体制の構築について話し合うワークショップを開催した。
- (2) 地域の魅力や地域資源を活かし、市民が誇りに思えるまちづくりの推進
- ・9月14日に開館した横手駅東口新公共施設「横手市生涯学習館Ao-na」の図書館内にマンガ文化等を活かした取り組みやまんが美術館をPRするマンガコーナーを設置するとともに、マガジン制作プロジェクトによるマガジン制作、マンガ版ビブリオバトル(10月27日開催)の準備を進めている。
 - ・地域の元気と賑わい創出事業として、増田の花火(9/14)、あやめまつり(6/22～6/30)、おもフェス(7/15)、芝桜フェスタ(5/9～5/15)、猩々まつり(9/7)、いものこまつりin鶴ヶ池(9/22)、大雄サマーフェスティバル(7/29)等を開催した。
- (3) 公共施設の適正な維持管理と、公共サービスの継続的な提供
- ・指定管理の更新や導入を機に、各施設の現状を踏まえたFM小会議が開催され、FM計画の再配置方針の検討が行われた。雄物川地域局では、独自に「雄物川地域FM計画推進プロジェクト会議」を開催し、FM計画対象施設の現況確認と今後の進め方について協議している。
 - ・公共インフラに関しては、定期的なパトロールの実施、道路の舗装修繕、公園の除草を行うとともに、大雨災害による土砂崩落等の被害箇所への対応を行った。
 - ・市民サービス部門での事務ミスが頻発したこともあり、これまで以上にミーティングを開催するとともに、コンプライアンス活動による事務意識の共有を図った。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 市民が主役の地域活動と、応援人口との関係深化につながる取り組みにより、人口減少に適応した地域づくりの推進
- ・浅舞地区、朝倉地区での運営協議会による運営開始に向け、地域住民の意識醸成を図る取り組みを進める。
 - ・ふるさと納税返礼品の拡充や返礼品登録事業者の掘り起こしを関係部局とともに継続するとともに、返礼品登録事業者と課題や情報を共有し、返礼品の磨き上げや寄附金額の増額に努める。また、Webマーケティングなどに優れている中間事業者からの提案(数量・単価設定、PR文や画像の見直し等)を活用し、ポータルサイトの魅力向上とPRの強化に継続し取り組む。
 - ・地域おこし協力隊制度の活用にあたり、「地域力の維持・強化」にとって協力隊が果たし得る役割やその必要性について、地域や担当部局と十分に議論し、受入れ団体や受入れ担当課との情報を共有し支援する。
 - ・横手市からの感謝の気持ちを伝える「リトルよこてfunパーティー」の開催後、効果を検証し次回企画につなげる。また、移住定住者を、考える方目線で移住定住支援施策を再検討するとともに、fun通信「みんなでつくる横手の未来」での継続した情報発信に努める。
- (2) 地域の魅力や地域資源を活かし、市民が誇りに思えるまちづくりの推進
- ・よこての未来共創プロジェクトを更に進めるためには、「公民連携方針」を策定する必要があり、庁内関係部署との策定協議を行う。
 - ・Ao-na図書館内マンガコーナーを活用したマンガ文化等の情報発信の継続と、マガジン制作プロジェクトによるマガジン制作、マンガ版ビブリオバトルを開催する。
 - ・地域の元気と賑わい創出事業として、蔵の日(10/6)、楓の木光のファンタジー、テニス技術交流会、山内にんじんフェア等を開催する。
- (3) 公共施設の適正な維持管理と、公共サービスの継続的な提供
- ・FM計画の着実な推進に向けて、庁内の協議はもとより、市民との対話を継続して実施する。
 - ・冬季の安全安心な作業と適正な維持管理を実施するため、関係機関と連携して業務を進める。
 - ・業務スキルの向上に取り組むとともに、確認作業の徹底により事務ミス根絶に取り組む。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 市民が主役の地域活動と、応援人口との関係深化につながる取組みにより、人口減少に適応した地域づくりの推進
- ・地区交流センターの取組みでは、浅舞地区で運営協議会の設立総会が3/22に開催され、令和7年4月からの運営開始が決定された。朝倉地区では、住民説明会やワークショップを開催しながら、準備委員会の発足に向けた取組みを行っている。また、地区交流センター職員や運営協議会委員を対象とした研修会・ワークショップを2回実施するとともに、地区交流センター大交流会では防災をテーマに170人が参加して盛会裏に終了した。
 - ・ふるさと納税では、返礼品の拡充や登録事業者の掘り起こし、返礼品の磨き上げの他、寄附しやすい環境づくりに努め、目標額(5億5千万円)を上回る見込みとなった。
 - ・地域おこし協力隊活用事業では、具体的な募集要項の作り上げと、隊員、受入れ団体、市がコミュニケーションを密にすることに努め、令和7年4月から新たに3名の隊員が横手市内で活動を開始することになり、新年度は6名でスタートする。今後は、隊員の活動状況の周知と、地域協力活動に対する日々サポートを充実させることで、定住、定着を図るとともに、隊員同士の繋がりづくりにも取り組む。
 - ・移住定住対策では、移住定住を考えている人への情報を伝えるパンフレットの改訂と、移住コーディネーターの活用による支援の在り方を検討した。4月から、地域おこし協力隊のOBOG3名を「移住コーディネーター」として委嘱することとしており、移住定住の希望者目線で支援、情報発信に努める。
- (2) 地域の魅力や地域資源を活かし、市民が誇りに思えるまちづくりの推進
- ・よこての未来共創プロジェクトでは、公民連携事業として民間企業との連携による旧片野家の活用を行うとともに、様々な提案に取り組める体制の整備に着手した。今後は、公民連携の指針となる「横手市まちづくり公民連携方針」の策定を行いながら、本格的な公民連携の体制整備に努める。
 - ・マンガ文化の取組みでは、Ao-naマンガコーナーの充実を図るとともに、中学生を対象とした「マンガ版ビブリオバトル」を全世代に拡大させた「大人のマンガ版ビブリオバトル」を開催した。また、増田まんが美術館のPRとして、市の公用バス2台にラッピングを行い、走る広告塔として整備した。
 - ・地域の元気と賑わい創出事業では、各地域の特色を生かしたイベントが行われた。
- (3) 公共施設の適正な維持管理と、公共サービスの継続的な提供
- ・FM計画の着実な推進では、地域局毎にFM推進会議を開催するなど、地域の実情に即した公共施設の再編が検討された。令和7年度は、解体が予定されている施設の着実な解体工事実施と、大森庁舎、大雄庁舎に関するあり方の検討を行う。
 - ・今冬は、1月中旬以降にまとまった降雪があり、安全な道路交通網の確保のため、各地域局とも除排雪作業に務めた。しかし、除排雪作業での除雪車の事故も発生しており、一層の注意喚起に努める必要がある。
 - ・事務ミス防止に向けて「不適正事務根絶対策会議」が開催され、全庁的な点検も実施したが根絶には至らなかった。今後とも再発防止に向けて、適正な事務執行と全職員が当事者意識を持って取り組む必要がある。